

4年ぶりに開催した 「第10回大旦桜祭り」

新企画で盛り上がる



■ 通行止めした桜並木に多くの方が集う

第114号

- 発行日
2023年5月14日
- 発行責任者
鳴原 久
- 編集・印刷
齋藤 馨

4年振りの第10回大旦桜祭りは、日程の設定に大いに悩まされましたが、それに追い打ちを掛けるように、二日目の朝には真冬に逆戻りしたかのようなボッサボサの大雪に見舞われました。ソメイヨシノは葉桜でしたが、遅咲きの御殿場桜や八重桜が、何とか桜祭

りの体を保ってくれました。今回は桜土手を全面通行止めにし、衛生面からキッチンカーを導入し、今までと違った雰囲気味わうことが出来、何とか成功裏に終わることが出来ました。町内皆様のご協力に心から感謝申し上げます。有難うございました。

■ 鳴原一雄実行委員長の開会宣言



■ 2台のキッチンカーが大繁盛



開会式には太鼓愛好会「桜鼓会」の子どもさん達がお祝いの演奏で花を添えてくれました。開催中も適宜演奏を行い、お祭り気分を大いに盛り上げてくれました。来場した子ども達にはお菓子を無料提供し、喜んで受け取る子ども達の姿が印象的でした。キッチンカーには多くの方が列を作り、桜祭りらしい風景になりました。

町内の皆様から寄贈された鯉のぼりは気持ち良さそうに泳ぎ、会場を爽やかな雰囲気包んでくれました。



■ 遅咲きの御殿場桜が頑張ってくれた

桜鼓会の子どもさんたち
頑張ってます



多くの方々に賑わった開会式



【今日はちょっと寒いですがね」と受付係】

★裏方さん

ありがとう！
どんな行事にも目に見えない裏方さんの存在があります。その方達の頑張りが成功の鍵を握っていると言っても過言ではありません。今回も多くの方々に頑張っていたいただき、有り難うございました。



【いらっしゃーい！一人5個までOKで一す】



【消防団の皆さん、お世話になりました】



【あ〜 まよっちゃうな〜 どれにしようかな〜】



← 第21班の齋藤正紀さんから頂いたチュウリップの球根が見事な花を咲かせ、桜祭りの会場に飾らせて頂きました。

今年は夏祭りも実施の方向で検討されています。是非夏祭りにもおいでください。

コラム

「納豆ばっば」の思い出



私が小学校の頃、大旦バス停の前にあった齋藤商店の隣に、一人住まいのお婆さんがたくましく暮らしていた。本当の名前は忘れてしまったが、巷では彼女のことを「納豆ばっば」と呼んでいた。

毎日の朝の早い時間に各家庭を回り、「今朝は納豆どうだべ？」と言って売り歩いていた。その頃の納豆は三角形をした経木（きょうぎ）に入っており、その姿が美味しそうに見えた。実はこの「納豆ばっば」は少々怖い？存在で、今思うと「今日は間に合うかも」と思っても「何だか買わないとまずいかな」なんて思ったのは私の家だけではなかっただろう。

という事で、兄弟が多い我が家の朝の食卓にはいつも沢山の納豆が入った大きなどんぶりがあった。いつも良く漬かった白菜を細かく刻んで入れていたが、それがまた美味しかった。私とすぐ上の兄は、いつもどんぶりの納豆がなくなつた途端にバトルが始まる。まだどんぶりの底に残っているねばねばのタレの中にご飯を入れてかき回し、ご飯に程よくタレが絡まったご飯を食べるのが好きだった。私がバトルに勝つ時もあり、兄に取られることもあったが、懐かしい思い出だ。

そんな事で納豆が大好きになり、体にも良いと思いつながら一年の内の半分以上は食べている。当時を思い出しながら・・・

【齋藤 馨】